

# 第2章 幸福実感指標の現状



この第2章では、「みえ県民力ビジョン」において設定した16の幸福実感指標（詳細は62頁参照）に基づき質問した「地域や社会の状況についての実感」について、属性（ここでは、地域、性、年齢、職業、配偶関係、世帯類型、本人収入、子どもの有無）ごとにクロス集計による分析を行いました。

## 第1節 16の幸福実感指標の結果概要

### 1 項目別の実感

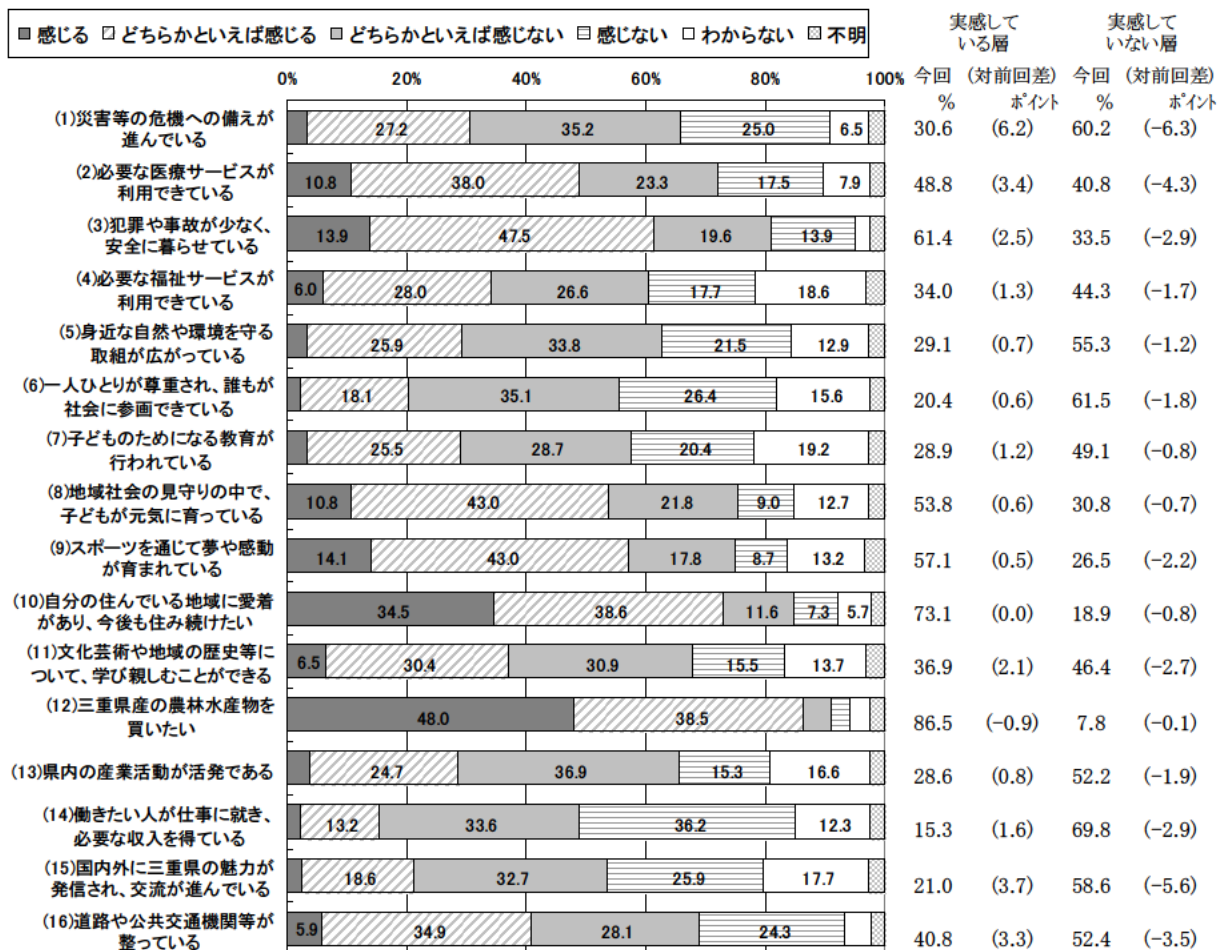
「実感している層」の割合は、『(12)三重県産の農林水産物を買いたい』が86.5%と最も高く、次いで『(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい』(73.1%)、『(3)犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている』(61.4%)となっています。

「実感していない層」の割合は『(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている』が69.8%と最も高く、次いで、『(6)一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている』(61.5%)、『(1)災害等の危機への備えが進んでいる』(60.2%)となっています。

前回調査と比較すると、「実感している層」の割合は『(12)三重県産の農林水産物を買いたい』を除いて、同率が高くなっています。前回調査との差でみると、『(1)災害等の危機への備えが進んでいる』(+6.2ポイント)、『(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる』(+3.7ポイント)、『(2)必要な医療サービスが利用できている』(+3.4ポイント)の順に高くなっています。一方、「実感していない層」の割合は16項目すべてで低くなっています。

※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計  
 ※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

図表 2-1-1 地域や社会の状況についての実感(項目別)



## 2 県全体と各属性の差（総括表）

県全体と比較して、「実感している」割合が高い、あるいは「実感していない」割合が低い属性項目（統計的に有意なもの）は次のとおりです。なお、詳しくは、次節に記載しています。

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い（実感している割合が高い・実感していない割合が低い）															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
地域	北勢													●			●
	伊賀																
	中南勢		●										●				
	伊勢志摩				●	●							●				●
	東紀州	●			●												
性別	男性										●						
	女性				●	●		●	●	●			●	●			●
年齢	20歳代									●							
	30歳代									●							
	40歳代									●			●				
	50歳代																
	60歳代																
	70歳以上	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●
主な職業	農林水産業	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●		●		
	自営業・自由業									●			●				●
	正規職員									●							
	パート・アルバイト・派遣社員													●			
	その他の職業																
	学生									●			●				
	専業主婦・主夫				●	●		●	●				●	●			●
	無職	●	●		●	●	●	●	●			●		●	●	●	●
配偶関係	未婚																
	有配偶												●				
	離別・死別					●	●					●	●	●	●	●	●
世帯類型	単独世帯												●	●	●	●	
	一世帯世帯				●		●	●	●						●	●	
	二世帯世帯																
	三世帯世帯							●	●	●	●						
本人の年間収入	～100万円未満	●				●		●	●	●			●	●		●	
	～200万円未満				●											●	
	～300万円未満										●						●
	～400万円未満											●					
	～500万円未満									●							
	～600万円未満			●							●		●				
	～800万円未満																
	～1,000万円未満										●				●		●
	1,000万円以上									●					●		
子ども	就学前の子いる							●	●				●				
	就学前以外の子いる																
	いない																

- 1 (災害等の危機への備えが進んでいる)    2 (必要な医療サービスが利用できる)    3 (犯罪や事故が少なく、安全に暮らしている)  
 4 (必要な福祉サービスが利用できる)    5 (身近な自然や環境を守る取組が広がっている)

県全体と比較して、「実感している」割合が低い、あるいは「実感していない」割合が高い属性項目（統計的に有意なもの）は次のとおりです。なお、詳しくは、次節に記載しています。

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に弱い（実感している割合が低い・実感していない割合が高い）															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
地域	北勢				●												●
	伊賀		●														●
	中南勢																
	伊勢志摩														●		
	東紀州									●				●	●		●
性別	男性	●			●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	
	女性																
年齢	20歳代	●											●		●	●	
	30歳代			●	●										●	●	●
	40歳代	●	●		●		●	●	●		●	●		●	●	●	●
	50歳代	●	●		●	●	●	●	●			●		●	●	●	●
	60歳代						●				●						
	70歳以上										●			●			
主な職業	農林水産業 自営業・自由業					●											
	正規職員	●	●		●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●
	パート・バイト・派遣社員		●		●		●				●				●		
	その他の職業																
	学生	●														●	
	専業主婦・主夫																
	無職										●			●			
配偶関係	未婚	●		●	●	●	●	●	●				●			●	
	有配偶																●
	離別・死別								●		●	●	●				
世帯類型	単独世帯	●	●						●	●	●	●		●			
	一世代世帯																
	二世帯世帯						●	●							●	●	●
	三世帯世帯						●								●		
本人の年間収入	～100万円未満																
	～200万円未満										●						
	～300万円未満						●								●	●	
	～400万円未満	●						●						●	●	●	
	～500万円未満	●				●	●						●	●	●	●	●
	～600万円未満	●				●	●	●	●				●	●	●	●	●
	～800万円未満				●	●		●	●	●			●		●	●	●
	～1,000万円未満	●			●			●	●					●			
	1,000万円以上									●				●		●	
子ども	就学前の子いる			●												●	●
	就学前以外の子いる																
	いない	●		●	●			●	●	●	●		●				

- 6(一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている)
- 7(子どものためになる教育が行われている)
- 8(地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている)
- 9(スポーツを通じて夢や感動が育まれている)
- 10(自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい)
- 11(文化芸術や地域の歴史等について、学び楽しむことができる)
- 12(三重県産の農林水産物を買いたい)
- 13(県内の産業活動が活発である)
- 14(働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている)
- 15(国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる)
- 16(G道路や公共交通機関等が整っている)

## 第2節 それぞれの幸福実感指標の現状

### 1 災害等の危機への備えが進んでいる（問2-1）

#### (1) 県全体の結果（図表2-2-1参照）

災害等の危機への備えが進んでいるかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は、30.6%、「どちらかといえば感じない」と「感じない」を合計した「実感していない層」の割合は60.2%となっており、「実感していない層」が「実感している層」の約2倍となっています。

前回調査と比較すると全ての地域で「実感している層」の割合が増加しており、県全体では6.2ポイント増加<sup>\*</sup>しました。

※前回調査との差については、信頼度99%以上（危険率1%未満）の水準で統計的に有意

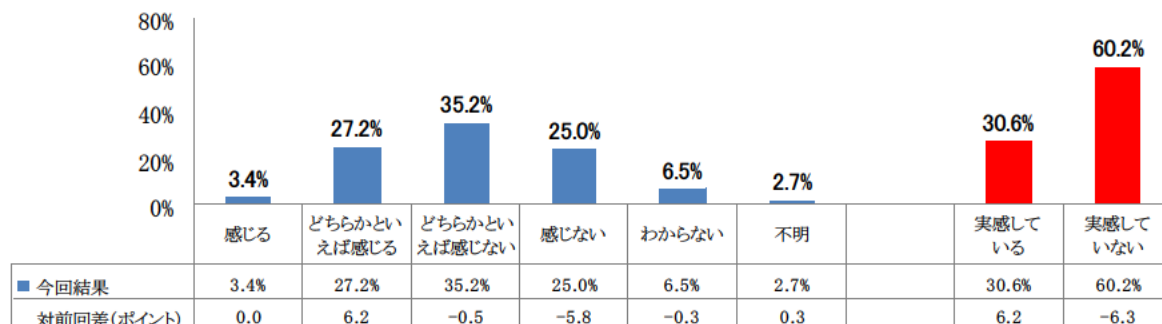
#### (2) 属性別から見た主な傾向（図表2-2-2参照）

- ・地域別で見ると、“東紀州地域”で実感している傾向が強くなっています。
- ・性別で見ると、“男性”で実感している傾向が弱くなっています。
- ・年齢別で見ると、“70歳以上”で実感している傾向が強く、“20歳代”、“40歳代”、“50歳代”で弱くなっています。
- ・その他、“正規職員”、“単独世帯”、“学生”、“未婚”、“子どもがいない”などで実感している傾向が弱くなっています。

#### (3) 考察

- ・20歳代の若者や40～50歳代の中年年齢層で実感している傾向が弱く、特に、単独世帯、学生、未婚者など、地域社会とのつながりが弱いと考えられる層では、防災に備えるための情報や訓練などの機会が乏しいことなどを理由に、災害等への備えが進んでいないと感じている可能性があります。
- ・平成24年度「防災に関する県民意識調査」の結果では、年齢が低くなるにつれて地震に対する関心や住んでいる地域の活断層や東海地震に関する情報等の認知度が低くなる傾向が明らかになっています。また、防災に関する講演会や研修会については、年齢が高いほど参加する傾向にあることが分かっています。
- ・これらのことから、学校における防災教育のさらなる充実や、若者や中年年齢層への防災・減災に関する情報のより効果的な提供なども考えられます。

図表2-2-1 県民の皆さんがどのくらい実感しているか



図表 2-2-2 特徴のある属性項目（1属性）

（凡例）「\*\*\*」…県全体の回答割合との差が統計的に非常に有意な属性項目（信頼度99%以上、危険率1%未満）

「\*\*」…県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目（信頼度95%以上、危険率5%未満）

「\*」…県全体の回答割合との差が統計的にある程度有意な属性項目（信頼度90%以上、危険率10%未満）

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い		実感している傾向が相対的に弱い	
		実感している割合が高い	実感していない割合が低い	実感している割合が低い	実感していない割合が高い
地域	北勢				
	伊賀				
	中南勢				
	伊勢志摩				
	東紀州	*	*		
性別	男性				*
	女性				
年齢	20歳代				***
	30歳代				
	40歳代				**
	50歳代				**
	60歳代				
	70歳以上				***
主な職業	農林水産業	**	**		
	自営業・自由業				
	正規職員				***
	パート・バイト・派遣社員				
	その他の職業				
	学生				*
	専業主婦・主夫				
配偶関係	無職		**		
	未婚			*	**
	有配偶 離別・死別				
世帯類型	単独世帯			*	
	一世代世帯				
	二世帯世帯				
	三世帯世帯				
本人の年間収入	～100万円未満		**		
	～200万円未満				
	～300万円未満				
	～400万円未満				**
	～500万円未満				**
	～600万円未満				**
	～800万円未満				
	～1,000万円未満				**
	1,000万円以上				
子ども	就学前の子いる				
	就学前以外の子いる いない			*	

前回調査との比較に関する詳細なデータは別冊のデータ集 42頁、  
2属性クロス集計を含む属性項目毎の詳細なデータは別冊のデータ集 58頁～61頁を参照

## 2 必要な医療サービスが利用できている（問2-2）

### （1）県全体の結果（図表 2-2-3 参照）

必要な医療サービスが利用できているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は、48.8%、「どちらかといえば感じない」と「感じない」を合計した「実感していない層」の割合は40.8%となっており、「実感している層」が「実感していない層」を上回っています。

前回調査と比較すると全ての地域で「実感している層」の割合が増加しており、県全体では3.4ポイント増加<sup>\*</sup>しました。

※前回調査との差については、信頼度99%以上（危険率1%未満）の水準で統計的に有意

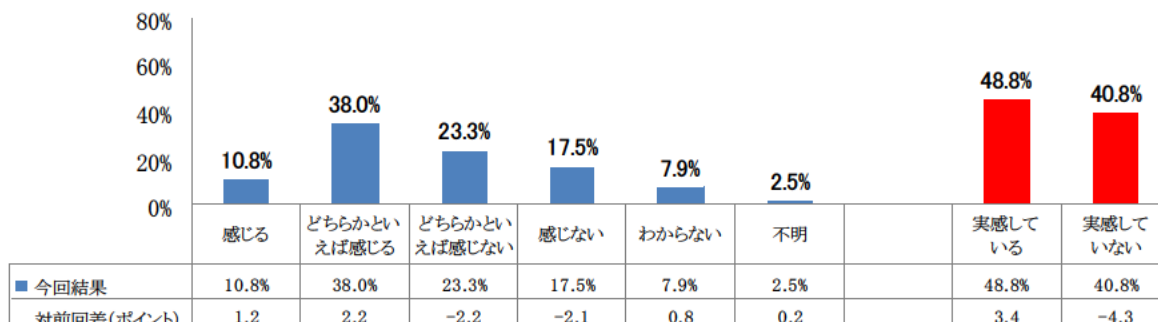
### （2）属性別から見た主な傾向（図表 2-2-4 参照）

- ・地域別で見ると、“中南勢地域”で実感している傾向が強く、“伊賀地域”では弱くなっています。
- ・年齢別で見ると、“70歳以上”で実感している傾向が強く、“40～50歳代”で弱くなっています。
- ・その他、“農林水産業”、“無職”で実感している傾向が強く、“正規職員”、“パート・バイト・派遣社員など”、“単独世帯”で実感している傾向が弱くなっています。

### （3）考察

- ・県全体では、実感している層が実感していない層を上回っていますが、地域や年齢による一定の差が見受けられます。
- ・中南勢地域では三重大学附属救急救命センターをはじめ、小児救急や周産期医療などの医療体制が充実していますが、伊賀地域では医師数等の影響により、救急医療をはじめとする地域の医療体制が深刻な状況にあり、それらが関係している可能性があります。
- ・40歳から50歳代で実感している傾向が弱いことについては、第1回みえ県民意識調査での「(自身が)健康だと思う」とする回答が40歳代から50歳代にかけて大きく減少する傾向と併せると、働き盛りの世代が自身の健康を不安視している可能性があります。これらの世代の不安を取り除くために、がん健診の受診推奨や疾病予防の啓発などの取組も考えられます。

図表 2-2-3 県民の皆さんがどのくらい実感しているか





図表 2-2-4 特徴のある属性項目（1属性）

（凡例）「\*\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に非常に有意な属性項目（信頼度99%以上、危険率1%未満）

「\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目（信頼度95%以上、危険率5%未満）

「\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的にある程度有意な属性項目（信頼度90%以上、危険率10%未満）

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い		実感している傾向が相対的に弱い	
		実感している割合が高い	実感していない割合が低い	実感している割合が低い	実感していない割合が高い
地域	北勢				
	伊賀			***	***
	中南勢	***	**		
	伊勢志摩				
	東紀州				
性別	男性				
	女性				
年齢	20歳代				
	30歳代				
	40歳代			***	***
	50歳代			***	***
	60歳代				
	70歳以上	***	***		
主な職業	農林水産業	***	**		
	自営業・自由業				
	正規職員			*	**
	パート・バイト・派遣社員			**	*
	その他の職業				
	学生				
	専業主婦・主夫				
無職	***	***			
配偶関係	未婚				
	有配偶				
	離別・死別				
世帯類型	単独世帯			*	
	一世代世帯				
	二世帯世帯				
	三世帯世帯				
本人の年間収入	～100万円未満				
	～200万円未満				
	～300万円未満				
	～400万円未満				
	～500万円未満				
	～600万円未満				
	～800万円未満				
	～1,000万円未満				
	1,000万円以上				
	子ども	就学前の子いる			
就学前以外の子いる					
いない					

前回調査との比較に関する詳細なデータは別冊のデータ集 43 頁、  
2属性クロス集計を含む属性項目毎の詳細なデータは別冊のデータ集 62 頁～65 頁を参照

### 3 犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている（問2-3）

#### （1）県全体の結果（図表2-2-5参照）

犯罪や事故が少なく、安全に暮らせているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は、61.4%、「どちらかといえば感じない」と「感じない」を合計した「実感していない層」の割合は33.5%となっており、「実感している層」が「実感していない層」を大きく上回っています。

前回調査と比較すると「実感している層」が2.5ポイント増加<sup>\*</sup>しました。

※前回調査との差については、信頼度99%以上（危険率1%未満）の水準で統計的に有意

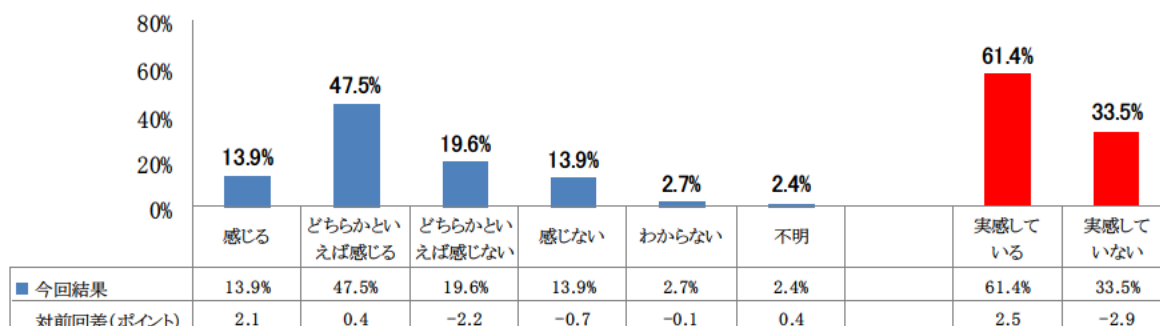
#### （2）属性別から見た主な傾向（図表2-2-6参照）

- ・年齢別で見ると、“70歳以上”で実感している傾向が強く、“30歳代”で弱くなっています。
- ・その他、“未婚”、“就学前の子どもがいる”、“子どもがいない”で実感している傾向が弱くなっています。

#### （3）考察

- ・県全体として、実感している層が実感していない層を大きく上回っており、属性別にも顕著な特徴は見受けられません。また、「わからない」という回答も少なくなっています。
- ・そのようななかで、就学前の子どもを持つ層の実感している傾向が弱いことは、保育所や幼稚園に通う子を持つ親が、子どもが犯罪被害や交通事故に巻き込まれることを不安視している可能性があります。不安の改善のためには、積極的な犯罪情報の提供も考えられます。

図表2-2-5 県民の皆さんがどのくらい実感しているか



図表 2-2-6 特徴のある属性項目（1属性）

（凡例）「\*\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に非常に有意な属性項目（信頼度99%以上、危険率1%未満）

「\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目（信頼度95%以上、危険率5%未満）

「\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的にある程度有意な属性項目（信頼度90%以上、危険率10%未満）

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い		実感している傾向が相対的に弱い	
		実感している割合が高い	実感していない割合が低い	実感している割合が低い	実感していない割合が高い
地域	北勢				
	伊賀				
	中南勢				
	伊勢志摩				
	東紀州				
性別	男性				
	女性				
年齢	20歳代				
	30歳代				*
	40歳代				
	50歳代				
	60歳代				
	70歳以上		**		
主な職業	農林水産業	***	*		
	自営業・自由業				
	正規職員				
	パート・バイト・派遣社員				
	その他の職業				
	学生				
	専業主婦・主夫 無職				
配偶関係	未婚			*	
	有配偶				
	離別・死別				
世帯類型	単独世帯				
	一世代世帯				
	二世帯世帯				
	三世帯世帯				
本人の年間収入	～100万円未満				
	～200万円未満				
	～300万円未満				
	～400万円未満				
	～500万円未満				
	～600万円未満	**			
	～800万円未満				
	～1,000万円未満				
	1,000万円以上				
子ども	就学前の子いる				*
	就学前以外の子いる				
	いない			**	

前回調査との比較に関する詳細なデータは別冊のデータ集 44 頁、  
2属性クロス集計を含む属性項目毎の詳細なデータは別冊のデータ集 66 頁～69 頁を参照

#### 4 必要な福祉サービスが利用できている（問2-4）

##### （1）県全体の結果（図表2-2-7参照）

必要な福祉サービスが利用できているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は、34.0%、「どちらかといえば感じない」と「感じない」を合計した「実感していない層」の割合は44.3%となっており、「実感していない層」が「実感している層」を上回っています。

前回調査と比較すると「実感している層」が1.3ポイント増加<sup>\*</sup>しました。

※前回調査との差については、信頼度90%以上（危険率10%未満）の水準で統計的に有意

##### （2）属性別から見た主な傾向（図表2-2-8参照）

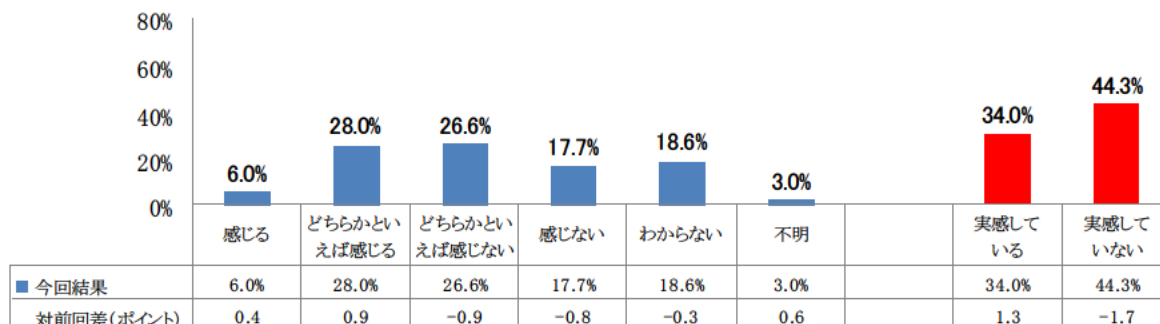
- ・地域別で見ると、「伊勢志摩地域」、「東紀州地域」で実感している傾向が強く、「北勢地域」で弱くなっています。
- ・性別で見ると、「女性」で実感している傾向が強く、「男性」で弱くなっています。
- ・年齢別で見ると、「70歳以上」で実感している傾向が強く、「30～50歳代」で弱くなっています。
- ・その他、「農林水産業」、「専業主婦・主夫」、「無職」などで実感している傾向が強く、「正規職員」、「パート・アルバイト・派遣社員など」、「未婚」、「子どもがいない」などで弱くなっています。

##### （3）考察

- ・「わからない」という回答が全体で18.6%あり、他の幸福実感指標と比較すると率が高いことは、当事者としての回答が難しい層が一定の比率で含まれている可能性があります。
- ・また、通常、福祉サービスの受け手と想定される70歳以上、無職、100～200万円未満の層では実感している傾向が強くなっています。
- ・一方で、40歳から50歳代で実感が弱くなっているのは、介護の担い手となっている世代が必要な福祉サービスを得られていないと感じている可能性があります。なお、精神面の負担についての質問（問3-6）において、50歳代では「高齢者などの介護」を悩みの原因とする比率が他の年齢層よりも高くなっていることも併せると、介護の担い手の負担を減らす介護サービスやレスパイトケア<sup>\*</sup>などの家族支援サービスの充実などの対応も考えられます。

※ 乳幼児や障がい児（者）、高齢者などを在宅でケアしている家族を癒やすため、施設への短期入所等により一時的にケアを代替し、リフレッシュを図ってもらう家族支援サービス。

図表2-2-7 県民の皆さんがどのくらい実感しているか



図表2-2-8 特徴のある属性項目（1属性）

（凡例）「\*\*\*」…県全体の回答割合との差が統計的に非常に有意な属性項目（信頼度99%以上、危険率1%未満）

「\*\*」…県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目（信頼度95%以上、危険率5%未満）

「\*」…県全体の回答割合との差が統計的にある程度有意な属性項目（信頼度90%以上、危険率10%未満）

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い		実感している傾向が相対的に弱い	
		実感している割合が高い	実感していない割合が低い	実感している割合が低い	実感していない層の割合が高い
地域	北勢				*
	伊賀				
	中南勢				
	伊勢志摩	*	**		
	東紀州	**	**		
性別	男性				**
	女性		*		
年齢	20歳代				
	30歳代			**	
	40歳代			**	***
	50歳代				***
	60歳代				
	70歳以上	***	***		
主な職業	農林水産業	***	**		
	自営業・自由業				
	正規職員			**	***
	パート・バイト・派遣社員			**	
	その他の職業				
	学生				
	専業主婦・主夫		**		
無職	***	**			
配偶関係	未婚			**	
	有配偶				
	離別・死別				
世帯類型	単独世帯				
	一世代世帯	*			
	二世帯世帯				
	三世帯世帯				
本人の年間収入	～100万円未満				
	～200万円未満		*		
	～300万円未満				
	～400万円未満				
	～500万円未満				
	～600万円未満				
	～800万円未満				***
	～1,000万円未満				*
1,000万円以上					
子ども	就学前の子いる				
	就学前以外の子いる				
	いない			**	

前回調査との比較に関する詳細なデータは別冊のデータ集45頁、  
2属性クロス集計を含む属性項目毎の詳細なデータは別冊のデータ集70頁～73頁を参照

## 5 身近な自然や環境を守る取組が広がっている（問2-5）

### （1）県全体の結果（図表 2-2-9 参照）

身近な自然や環境を守る取組が広がっているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は、29.1%、「どちらかといえば感じない」と「感じない」を合計した「実感していない層」の割合は55.3%となっており、「実感していない層」が「実感している層」を大きく上回っています。

前回調査と比較すると「実感している層」が0.7ポイント\*増加しました。

※前回調査との差の統計的な有意性は信頼度90%以上（危険率10%未満）の水準では確認できない

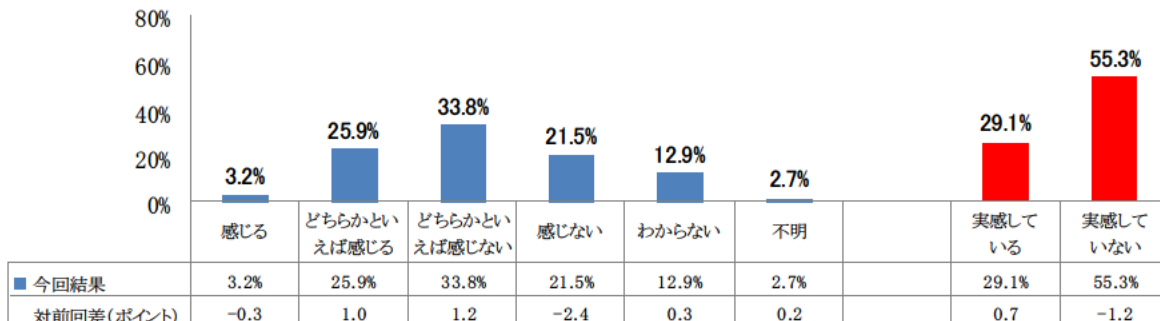
### （2）属性別から見た主な傾向（図表 2-2-10 参照）

- ・地域別で見ると、“伊勢志摩地域”で実感している傾向が強くなっています。
- ・性別で見ると、“女性”で実感している傾向が強く、“男性”で弱くなっています。
- ・年齢別で見ると、“70歳以上”で実感している傾向が強く、“50歳代”で弱くなっています。
- ・その他、“農林水産業”、“専業主婦・主夫”などで実感している傾向が強く、“正規職員”、“未婚”などで弱くなっています。

### （3）考察

- ・実感している層は属性別に大きな差が見られませんが、実感していない層については、地域や性別により、一定の差が見受けられます。
- ・伊勢志摩地域で実感している傾向が強いのは、海岸漂着物の清掃活動や志摩市による里海再生の取組など、住民が自然や環境を守る取組に触れる機会が多いことによる可能性があります。
- ・農林水産業で実感している傾向が強くなっていることは、日ごろから自然環境からの恩恵を受ける機会が多い業種であり、環境保全活動への意識が高くなっている可能性があります。
- ・これらのことから、幅広い層に対する身近な自然や環境を守る取組に参加しやすい仕組みづくりや動機づけなどの対応も考えられます。

図表 2-2-9 県民の皆さんがどのくらい実感しているか



図表 2-2-10 特徴のある属性項目（1属性）

（凡例）「\*\*\*」…県全体の回答割合との差が統計的に非常に有意な属性項目（信頼度99%以上、危険率1%未満）

「\*\*」…県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目（信頼度95%以上、危険率5%未満）

「\*」…県全体の回答割合との差が統計的にある程度有意な属性項目（信頼度90%以上、危険率10%未満）

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い		実感している傾向が相対的に弱い	
		実感している割合が高い	実感していない割合が低い	実感している割合が低い	実感していない割合が高い
地域	北勢				
	伊賀				
	中南勢				
	伊勢志摩		**		
	東紀州				
性別	男性				***
	女性		**		
年齢	20歳代				
	30歳代				
	40歳代				
	50歳代				**
	60歳代				
	70歳以上	*	***		
主な職業	農林水産業	**			
	自営業・自由業				*
	正規職員				***
	パート・バイト・派遣社員				
	その他の職業				
	学生				
	専業主婦・主夫		**		
無職		**			
配偶関係	未婚			*	
	有配偶				
	離別・死別		*		
世帯類型	単独世帯				
	一世代世帯				
	二世帯世帯				
	三世帯世帯				
本人の年間収入	～100万円未満		**		
	～200万円未満				
	～300万円未満				
	～400万円未満				
	～500万円未満				**
	～600万円未満				*
	～800万円未満				***
	～1,000万円未満				
	1,000万円以上				
子ども	就学前の子いる				
	就学前以外の子いる				
	いない				

前回調査との比較に関する詳細なデータは別冊のデータ集 46頁、  
2属性クロス集計を含む属性項目毎の詳細なデータは別冊のデータ集 74頁～77頁を参照

## 6 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている（問2-6）

### （1）県全体の結果（図表 2-2-11 参照）

一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は20.4%、「どちらかといえば感じない」と「感じない」を合計した「実感していない層」の割合は61.5%となっており、「実感していない層」が「実感している層」の約3倍となっています。

前回調査と比較すると、「実感している層」が0.6ポイント増加\*しました。

※前回調査との差の統計的な有意性は信頼度90%以上（危険率10%未満）の水準では確認できない

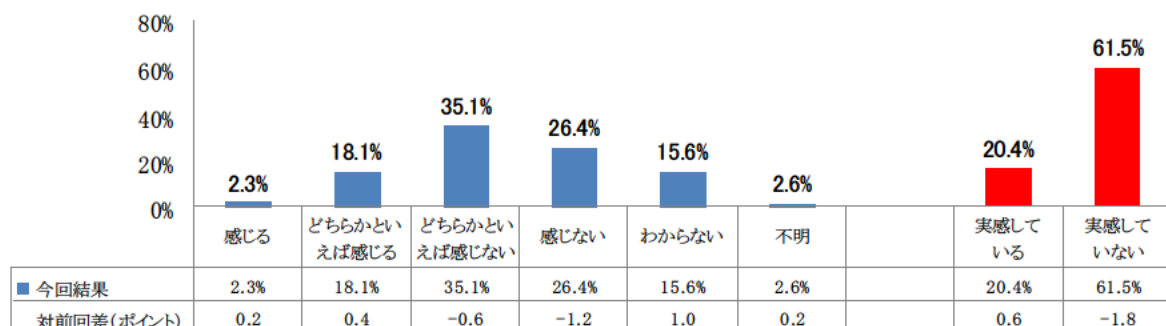
### （2）属性別から見た主な傾向（図表 2-2-12 参照）

- ・性別で見ると、“男性”で実感している傾向が弱くなっています。
- ・年齢別で見ると、“70歳以上”で実感している傾向が強く、“40～60歳代”で弱くなっています。
- ・その他、“農林水産業”、“無職”、“一世代世帯”などで実感している傾向が強く、“正規職員”、“パート・アルバイト・派遣社員など”、“二世帯世帯”、“三世帯世帯”などで弱くなっています。
- ・詳細分析によると、“40～50歳代の女性”などで実感している傾向が弱くなっています。

### （3）考察

- ・70歳以上、無職で実感している傾向が強く、男性、40歳代、50歳代、正規職員で弱いという傾向は、多くの設間に見られる傾向であり、この設間についての特徴ではない可能性があります。
- ・ただ、40～50歳代の、特に女性で実感している傾向が弱いことは、子育てが一段落して以降の就労等による社会への参画について不満を感じている可能性があります。

図表 2-2-11 県民の皆さんがどのくらい実感しているか





図表 2-2-12 特徴のある属性項目（1属性）

（凡例）「\*\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に非常に有意な属性項目（信頼度99%以上、危険率1%未満）

「\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目（信頼度95%以上、危険率5%未満）

「\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的にある程度有意な属性項目（信頼度90%以上、危険率10%未満）

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い		実感している傾向が相対的に弱い	
		実感している割合が高い	実感していない割合が低い	実感している割合が低い	実感していない割合が高い
地域	北勢				
	伊賀				
	中南勢				
	伊勢志摩				
	東紀州				
性別	男性				**
	女性				
年齢	20歳代				
	30歳代				
	40歳代				***
	50歳代				***
	60歳代				*
	70歳以上	**	***		
主な職業	農林水産業	**	*		
	自営業・自由業				
	正規職員				***
	パート・バイト・派遣社員				**
	その他の職業				
	学生				
	専業主婦・主夫 無職		***		
配偶関係	未婚				*
	有配偶				
	離別・死別		*		
世帯類型	単独世帯				
	一世代世帯		*		
	二世帯世帯				*
	三世帯世帯				*
本人の年間収入	～100万円未満				
	～200万円未満				
	～300万円未満				**
	～400万円未満				
	～500万円未満				**
	～600万円未満				**
	～800万円未満				
	～1,000万円未満				
	1,000万円以上				
子ども	就学前の子いる				
	就学前以外の子いる				
	いない				

前回調査との比較に関する詳細なデータは別冊のデータ集 47 頁、  
2属性クロス集計を含む属性項目毎の詳細なデータは別冊のデータ集 78 頁～81 頁を参照

## 7 子どものためになる教育が行われている（問2-7）

### （1）県全体の結果（図表 2-2-13 参照）

子どものためになる教育が行われているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は28.9%、「どちらかといえば感じない」と「感じない」を合計した「実感していない層」の割合は49.1%となっており、「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合よりも20.2ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「実感している層」が1.2ポイント増加\*しました。

※前回調査との差については、信頼度90%以上（危険率10%未満）の水準で統計的に有意

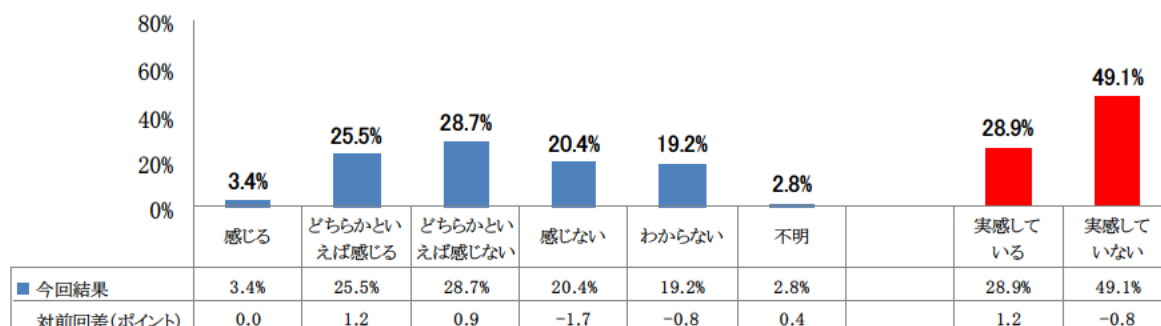
### （2）属性別から見た主な傾向（図表 2-2-14 参照）

- ・性別で見ると、“女性”で実感している傾向が強く、“男性”で弱くなっています。
- ・年齢別で見ると、“70歳以上”で実感している傾向が強くなっており、“40～50歳代”で弱くなっています。
- ・その他、“専業主婦・主夫”、“無職”、“就学前の子どもがいる”などで実感している傾向が強く、“正規職員”、“未婚”、“離別・死別”、“単独世帯”、“子どもがいない”などで弱くなっています。
- ・詳細分析によると、“小中学生の子どもがいる”で実感している傾向が強く、“中学卒業後で20歳未満の子どもがいる”で弱くなっています。

### （3）考察

- ・県全体としては「わからない」という回答が、各幸福実感指標のうち最多となる19.2%あります。一方で、子どもがいない、未婚、単独世帯で実感している傾向が弱いのは、「わからない」と同様の意図の回答である可能性があります。
- ・また、子どもがいる層を詳細に分析すると、中学生までの子どもがいる層では実感している傾向が強くなっていますが、中学卒業から20歳未満の子どもがいる層では実感している傾向が弱くなっています。これは、子どもの義務教育の終了を境に、親の教育に対する意識やかかわり方、期待する内容などが異なっている可能性があります。

図表 2-2-13 県民の皆さんがどのくらい実感しているか



図表 2-2-14 特徴のある属性項目（1属性）

（凡例）「\*\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に非常に有意な属性項目（信頼度99%以上、危険率1%未満）

「\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目（信頼度95%以上、危険率5%未満）

「\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的にある程度有意な属性項目（信頼度90%以上、危険率10%未満）

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い		実感している傾向が相対的に弱い	
		実感している割合が高い	実感していない割合が低い	実感している割合が低い	実感していない割合が高い
地域	北勢				
	伊賀				
	中南勢				
	伊勢志摩				
	東紀州				
性別	男性				***
	女性		**		
年齢	20歳代				
	30歳代				
	40歳代				***
	50歳代			*	***
	60歳代				
	70歳以上		***		
主な職業	農林水産業				
	自営業・自由業				
	正規職員				***
	パート・バイト・派遣社員				
	その他の職業				
	学生				
	専業主婦・主夫		*		
無職		***			
配偶関係	未婚			**	
	有配偶				
	離別・死別			*	
世帯類型	単独世帯			**	
	一世代世帯		**		
	二世帯世帯				**
	三世帯世帯	*			
本人の年間収入	～100万円未満		*		
	～200万円未満				
	～300万円未満				
	～400万円未満				*
	～500万円未満				
	～600万円未満				*
	～800万円未満				**
	～1,000万円未満				***
	1,000万円以上				
	子ども	就学前の子いる	***		
就学前以外の子いる					
いない				***	

前回調査との比較に関する詳細なデータは別冊のデータ集 48 頁、  
2 属性クロス集計を含む属性項目毎の詳細なデータは別冊のデータ集 82 頁～85 頁を参照

## 8 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている（問2-8）

### （1）県全体の結果（図表 2-2-15 参照）

地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は53.8%、「どちらかといえば感じない」と「感じない」を合計した「実感していない層」の割合は30.8%となっており、「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合よりも23.0ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「実感している層」が0.6ポイント増加\*しました。

※前回調査との差の統計的な有意性は信頼度90%以上（危険率10%未満）の水準では確認できない

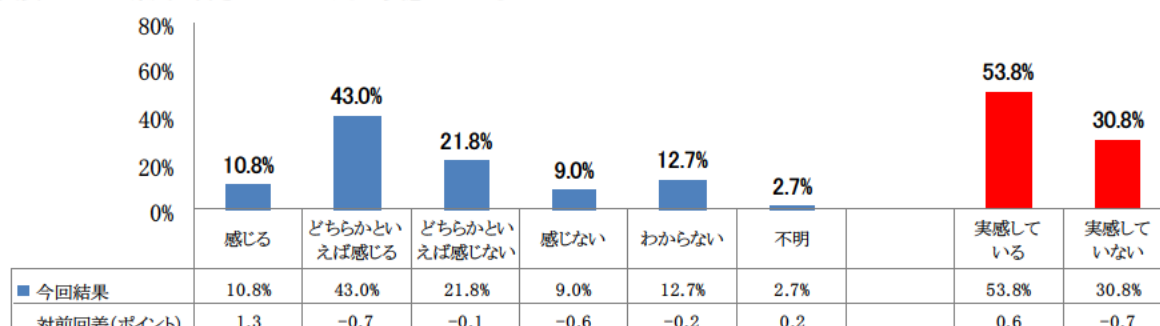
### （2）属性別から見た主な傾向（図表 2-2-16 参照）

- ・性別で見ると、“女性”で実感している傾向が強く、“男性”で弱くなっています。
- ・年齢別で見ると、“70歳以上”で実感している傾向が強く、“40～50歳代”で弱くなっています。
- ・その他、“専業主婦・主夫”、“無職”、“100万円未満”、“就学前の子どもがいる”などで実感している傾向が強く、“正規職員”、“未婚”、“単独世帯”、“500万円以上”、“子どもがいない”などで弱くなっています。

### （3）考察

- ・県全体では、実感している層が実感していない層を大きく上回っていますが、未婚、単独世帯、子どもがいない層などで実感している傾向が弱いのは、子どもの育ちに対しての関心が薄い可能性がります。
- ・また、専業主婦・主夫、就学前の子どもがいる層、70歳以上で実感している傾向が強い一方で、正規職員、40歳～50歳代、年収500万円以上の層で実感している傾向が弱くなっているのは、雇用労働者層が子育てを支える地域社会とかかわりを持つのが難しいことが関係している可能性があります。

図表 2-2-15 県民の皆さんがどのくらい実感しているか



図表 2-2-16 特徴のある属性項目（1属性）

（凡例）「\*\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に非常に有意な属性項目（信頼度99%以上、危険率1%未満）

「\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目（信頼度95%以上、危険率5%未満）

「\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的にある程度有意な属性項目（信頼度90%以上、危険率10%未満）

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い		実感している傾向が相対的に弱い	
		実感している割合が高い	実感していない割合が低い	実感している割合が低い	実感していない割合が高い
地域	北勢				
	伊賀				
	中南勢				
	伊勢志摩				
	東紀州				
性別	男性			*	***
	女性	*	**		
年齢	20歳代				
	30歳代				
	40歳代				**
	50歳代			***	***
	60歳代				
	70歳以上	***	***		
主な職業	農林水産業	**			
	自営業・自由業				
	正規職員			***	***
	パート・バイト・派遣社員				
	その他の職業				
	学生				
	専業主婦・主夫	***	**		
無職		***			
配偶関係	未婚			***	
	有配偶				
	離別・死別				
世帯類型	単独世帯			**	
	一世代世帯		*		
	二世帯世帯				
	三世帯世帯	*			
本人の年間収入	～100万円未満	*	**		
	～200万円未満				
	～300万円未満				
	～400万円未満				
	～500万円未満				
	～600万円未満				**
	～800万円未満			*	***
	～1,000万円未満			*	**
	1,000万円以上			*	***
子ども	就学前の子いる	***			
	就学前以外の子いる				
	いない			***	

前回調査との比較に関する詳細なデータは別冊のデータ集 49頁、  
2属性クロス集計を含む属性項目毎の詳細なデータは別冊のデータ集 86頁～89頁を参照

## 9 スポーツを通じて夢や感動が育まれている（問2-9）

### （1）県全体の結果（図表 2-2-17 参照）

スポーツを通じて夢や感動が育まれているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は57.1%、「どちらかといえば感じない」と「感じない」を合計した「実感していない層」の割合は26.5%となっており、「実感している層」が「実感していない層」の約2倍となっています。

前回調査と比較すると、「実感している層」が県全体で0.5ポイント増加<sup>※1</sup>しており、特に中南勢地域では5.4ポイント増加<sup>※2</sup>しています。

※1 県全体における前回調査との差の統計的な有意性は信頼度90%以上（危険率10%未満）の水準では確認できない

※2 中南勢地域における前回調査との差については、信頼度99%以上（危険率1%未満）の水準で統計的に有意

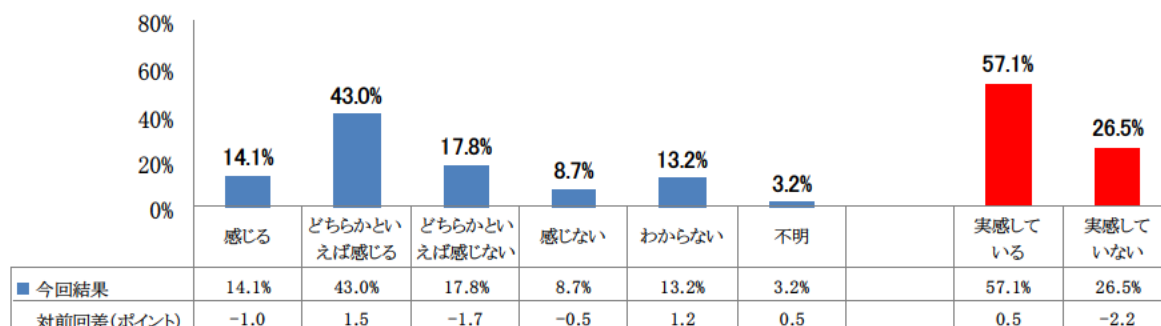
### （2）属性別から見た主な傾向（図表 2-2-18 参照）

- ・地域別で見ると、「東紀州地域」で実感している傾向が弱くなっています。
- ・性別で見ると、“女性”で実感している傾向が強く、“男性”で弱くなっています。
- ・年齢別で見ると、“20～40歳代”で実感している傾向が強く、“60歳代”で弱くなっています。
- ・その他、“学生”などで実感している傾向が強く、“無職”などで弱くなっています。
- ・詳細分析によると、“中学卒業後で20歳未満の子どもがいる”、“男性の学生”、“20歳代の一世帯世帯”などで、実感している傾向が強くなっています。

### （3）考察

- ・他の幸福実感指標の傾向とは異なり、若年層で実感している傾向が強くなっています。また、正規職員では「実感している割合」も「実感していない割合」も高くなっていますが、70歳以上では「実感している割合」も「実感していない割合」も低くなっています。これらについては、実際にスポーツをしているかどうかで実感が異なっている可能性があります。
- ・なお、中学卒業後で20歳未満の子どもがいる層において、実感している傾向が強いのは、子どもが学校のクラブ活動などでスポーツを実践する機会が多いことによる可能性があります。
- ・これらのことから、スポーツを実践していない人たちも含めて、スポーツによる人や地域の絆づくりにつながるような取組も考えられます。

図表 2-2-17 県民の皆さんがどのくらい実感しているか



図表 2-2-18 特徴のある属性項目（1属性）

（凡例）「\*\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に非常に有意な属性項目（信頼度99%以上、危険率1%未満）

「\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目（信頼度95%以上、危険率5%未満）

「\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的にある程度有意な属性項目（信頼度90%以上、危険率10%未満）

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い		実感している傾向が相対的に弱い	
		実感している割合が高い	実感していない割合が低い	実感している割合が低い	実感していない割合が高い
地域	北勢				
	伊賀				
	中南勢				
	伊勢志摩				
	東紀州			*	
性別	男性				***
	女性		**		
年齢	20歳代	***			
	30歳代	*			
	40歳代	**			
	50歳代				
	60歳代			**	
	70歳以上		*	*	
主な職業	農林水産業				
	自営業・自由業	**			
	正規職員	**			*
	パート・バイト・派遣社員				
	その他の職業				
	学生	***			
配偶関係	専業主婦・主夫			***	
	無職				
	未婚				
世帯類型	有配偶				
	離別・死別			**	
	単独世帯			**	
本人の年間収入	一世代世帯				
	二世帯世帯				
	三世帯世帯	**			
	～100万円未満		*		
	～200万円未満			*	
	～300万円未満				
	～400万円未満				
	～500万円未満	*			
	～600万円未満				
～800万円未満				*	
～1,000万円未満					
1,000万円以上	*				
子ども	就学前の子いる				
	就学前以外の子いる				
	いない			*	

前回調査との比較に関する詳細なデータは別冊のデータ集 50頁、  
2属性クロス集計を含む属性項目毎の詳細なデータは別冊のデータ集 90頁～93頁を参照

## 10 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい（問2-10）

### （1）県全体の結果（図表 2-2-19 参照）

自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は73.1%、「どちらかといえば感じない」と「感じない」を合計した「実感していない層」の割合は18.9%となっており、「実感している層」が「実感していない層」の4倍弱になっています。

前回調査と比較すると、「実感している層」の割合は同率となっています。

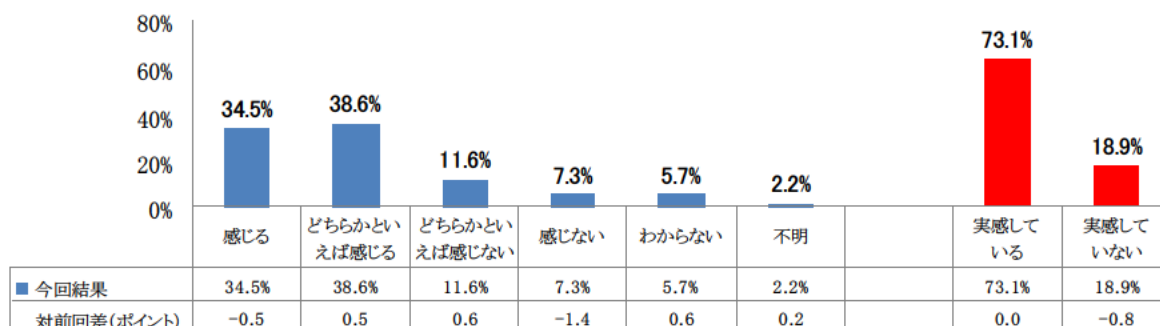
### （2）属性別から見た主な傾向（図表 2-2-20 参照）

- ・地域別で見ると、「伊賀地域」で実感している傾向が弱くなっています。
- ・性別で見ると、「男性」で実感している傾向が強くなっています。
- ・年齢別で見ると、「70歳以上」で実感している傾向が強く、「40歳代」で弱くなっています。
- ・その他、「農林水産業」などで実感している傾向が強く、「パート・アルバイト・派遣社員など」、「離別・死別」、「単独世帯」などで弱くなっています。
- ・詳細分析によると、「20歳代の単独世帯」、「50歳代の無職、未婚、単独世帯」、「パート・アルバイト・派遣職員などの未婚」などで、実感している傾向が弱くなっています。

### （3）考察

- ・県全体では7割以上の方が実感しており、それぞれの属性においても実感している比率自体は高くなっていますが、上記の相対的に実感している傾向が低くなっている層（20歳代の単独世帯、50歳代の無職、未婚、単独世帯など）については、地域とのかかわりが少なくなっている可能性があります。
- ・また、今回のみえ県民意識調査では、「地域や社会への参画」（問4）についての質問をしていますが、若年層、正規職員、未婚、単独世帯などで近所づきあいが少ない傾向が見られます。
- ・これらのことから、それらの人々が将来的に孤立化してしまうことのないよう、出会い、集う場所づくりなどの取組も考えられます。

図表 2-2-19 県民の皆さんがどのくらい実感しているか





図表 2-2-20 特徴のある属性項目（1属性）

（凡例）「\*\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に非常に有意な属性項目（信頼度99%以上、危険率1%未満）

「\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目（信頼度95%以上、危険率5%未満）

「\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的にある程度有意な属性項目（信頼度90%以上、危険率10%未満）

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い		実感している傾向が相対的に弱い	
		実感している割合が高い	実感していない割合が低い	実感している割合が低い	実感していない割合が高い
地域	北勢				
	伊賀			***	
	中南勢				
	伊勢志摩				
	東紀州				
性別	男性	*			
	女性				
年齢	20歳代				
	30歳代				
	40歳代			**	
	50歳代				
	60歳代				
	70歳以上	***	*		
主な職業	農林水産業	***			
	自営業・自由業				
	正規職員				
	パート・バイト・派遣社員			***	*
	その他の職業				
	学生				
	専業主婦・主夫 無職				
配偶関係	未婚				
	有配偶				
	離別・死別			**	
世帯類型	単独世帯			***	
	一世代世帯				
	二世帯世帯				
	三世帯世帯	*			
本人の年間収入	～100万円未満				
	～200万円未満				
	～300万円未満	*			
	～400万円未満				
	～500万円未満				
	～600万円未満	*			
	～800万円未満				
	～1,000万円未満	***			
	1,000万円以上				
子ども	就学前の子いる				
	就学前以外の子いる				
	いない			*	

前回調査との比較に関する詳細なデータは別冊のデータ集 51頁、  
2属性クロス集計を含む属性項目毎の詳細なデータは別冊のデータ集 94頁～97頁を参照

## 1.1 文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができる（問2-11）

### (1) 県全体の結果（図表 2-2-21 参照）

文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができるかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は36.9%、「どちらかといえば感じない」と「感じない」を合計した「実感していない層」の割合は46.4%となっており、「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合よりも9.5ポイント高くなっています。前回調査と比較すると、「実感している層」が2.1ポイント増加\*しました。

※前回調査との差については、信頼度95%以上（危険率5%未満）の水準で統計的に有意

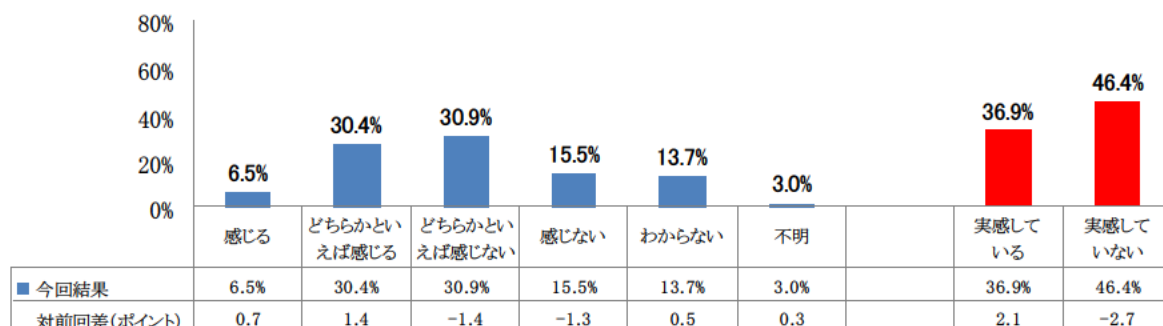
### (2) 属性別から見た主な傾向（図表 2-2-22 参照）

- ・地域別で見ると、“中南海地域”、“伊勢志摩地域”で実感している傾向が強くなっており、“北勢地域”で弱くなっています。
- ・年齢別で見ると、“70歳以上”で実感している傾向が強く、“30～50歳代”で弱くなっています。
- ・その他、“農林水産業”、“無職”などで実感している傾向が強く、“正規職員”、“400～800万円未満”などで弱くなっています。

### (3) 考察

- ・30～50歳代や正規職員で実感している傾向が弱くなっているのは、仕事などで多忙であるために文化芸術や地域の歴史等に親しむための時間がとれていない可能性があります。
- ・また、中南海や伊勢志摩で実感している傾向が強く、北勢で弱いという地域による差が見られます。これらのことから、多様な地域や年齢層において、文化芸術や地域の歴史等に触れることが可能となるような取組も考えられます。

図表 2-2-21 県民の皆さんがどのくらい実感しているか



図表 2-2-22 特徴のある属性項目（1属性）

（凡例）「\*\*\*」…県全体の回答割合との差が統計的に非常に有意な属性項目（信頼度99%以上、危険率1%未満）

「\*\*」…県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目（信頼度95%以上、危険率5%未満）

「\*」…県全体の回答割合との差が統計的にある程度有意な属性項目（信頼度90%以上、危険率10%未満）

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い		実感している傾向が相対的に弱い	
		実感している割合が高い	実感していない割合が低い	実感している割合が低い	実感していない割合が高い
地域	北勢			*	**
	伊賀				
	中南勢	**			
	伊勢志摩		**		
	東紀州				
性別	男性				
	女性				
年齢	20歳代				
	30歳代				**
	40歳代				**
	50歳代				***
	60歳代				
	70歳以上	**	***		
主な職業	農林水産業	**			
	自営業・自由業				
	正規職員				***
	パート・バイト・派遣社員				
	その他の職業				
	学生	*			
	専業主婦・主夫 無職		***		
配偶関係	未婚				
	有配偶				
	離別・死別		*		
世帯類型	単独世帯				
	一世代世帯				
	二世帯世帯				
	三世帯世帯				
本人の年間収入	～100万円未満				
	～200万円未満				
	～300万円未満				
	～400万円未満	*			
	～500万円未満				*
	～600万円未満				**
	～800万円未満				**
	～1,000万円未満				
	1,000万円以上				
子ども	就学前の子いる				
	就学前以外の子いる				
	いない				

前回調査との比較に関する詳細なデータは別冊のデータ集 52頁、  
2属性クロス集計を含む属性項目毎の詳細なデータは別冊のデータ集 98頁～101頁を参照

## 1.2 三重県産の農林水産物を買いたい（問2-12）

### (1) 県全体の結果（図表 2-2-23 参照）

三重県産の農林水産物を買いたいかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は86.5%、「どちらかといえば感じない」と「感じない」を合計した「実感していない層」の割合は7.8%となっており、昨年度に引き続きほとんどの人が実感しています。

前回調査と比較すると、「実感している層」の割合が0.9ポイント減少<sup>※1</sup>し、「実感していない層」の割合も0.1ポイント減少<sup>※2</sup>しました。

※1 「実感している層」の割合の減少は信頼度90%以上（危険率10%未満）の水準で統計的に有意

※2 「実感していない層」の割合の減少について統計的な有意性は信頼度90%以上（危険率10%未満）の水準では確認できない

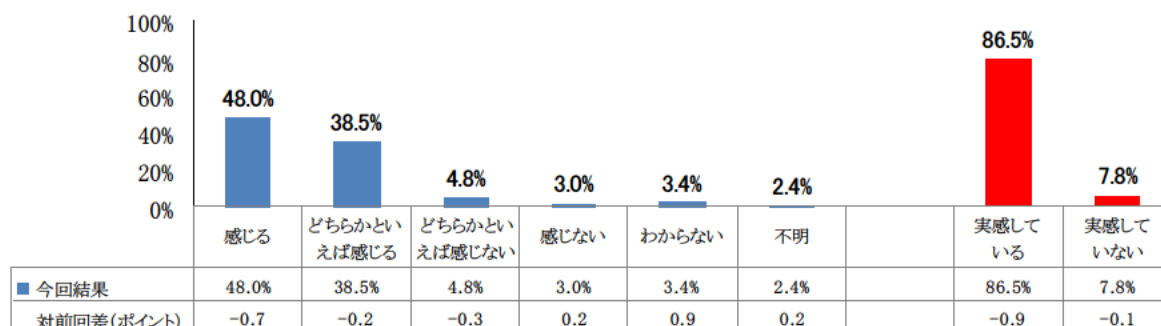
### (2) 属性別から見た主な傾向（図表 2-2-24 参照）

- ・性別で見ると、“女性”で実感している傾向が強く、“男性”で弱くなっています。
- ・年齢別で見ると、“40歳代”で実感している傾向が強く、“20歳代”、“70歳以上”で弱くなっています
- ・その他、“農林水産業”、“専業主婦・主夫”、“有配偶”などで実感している傾向が強く、“無職”、“未婚”、“単独世帯”、“子どもがいない”などで弱くなっています。
- ・詳細分析によると、“20歳代の男性”、“70歳以上の男性”などで実感している傾向が弱くなっています。

### (3) 考察

- ・県全体では、実感している割合が86.5%と、多数が実感しています。
- ・なかでも、女性、40歳代、専業主婦・主夫、有配偶などで実感している傾向が強いのは、家族があり、食材を購入して食事を用意する機会が多いことによる可能性があります。
- ・一方、未婚、単独世帯、子どもがいない、20歳代や70歳以上の男性などで実感している傾向が弱いのは、自身で料理をしたり、食材を買い物したりする機会が少ないことによる可能性があります。

図表 2-2-23 県民の皆さんがどのくらい実感しているか



図表 2-2-24 特徴のある属性項目（1属性）

（凡例）「\*\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に非常に有意な属性項目（信頼度99%以上、危険率1%未満）

「\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目（信頼度95%以上、危険率5%未満）

「\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的にある程度有意な属性項目（信頼度90%以上、危険率10%未満）

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い		実感している傾向が相対的に弱い	
		実感している割合が高い	実感していない割合が低い	実感している割合が低い	実感していない割合が高い
地域	北勢				
	伊賀				
	中南勢				
	伊勢志摩				
	東紀州				
性別	男性			**	
	女性	**			
年齢	20歳代			*	
	30歳代				
	40歳代	**			
	50歳代				
	60歳代				
	70歳以上			**	
主な職業	農林水産業	***			
	自営業・自由業	**			
	正規職員				
	パート・バイト・派遣社員	*			
	その他の職業				
	学生				
	専業主婦・主夫 無職	***			***
配偶関係	未婚			***	
	有配偶	**			
	離別・死別			**	
世帯類型	単独世帯			***	
	一世代世帯				
	二世帯世帯				
	三世帯世帯				
本人の年間収入	～100万円未満	*			
	～200万円未満				
	～300万円未満				
	～400万円未満				
	～500万円未満				
	～600万円未満	*			
	～800万円未満				
	～1,000万円未満				
	1,000万円以上				
子ども	就学前の子いる	*			
	就学前以外の子いる				
	いない			***	

前回調査との比較に関する詳細なデータは別冊のデータ集53頁、  
2属性クロス集計を含む属性項目毎の詳細なデータは別冊のデータ集102頁～105頁を参照

### 1.3 県内の産業活動が活発である（問2-13）

#### (1) 県全体の結果（図表 2-2-25 参照）

県内の産業活動が活発であるかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は28.6%、「どちらかといえば感じない」と「感じない」を合計した「実感していない層」の割合は52.2%となっており、昨年度に引き続き「実感していない層」が「実感している層」のほぼ倍となっています。

前回調査と比較すると、「実感している層」の割合が0.8ポイント増加<sup>※1</sup>し、「実感していない層」の割合は1.9ポイント減少<sup>※2</sup>しました。

※1 「実感している層」の割合の増加について統計的な有意性は信頼度90%以上（危険率10%未満）の水準では確認できない

※2 「実感していない層」の割合の減少について信頼度95%以上（危険率5%未満）の水準で統計的に有意

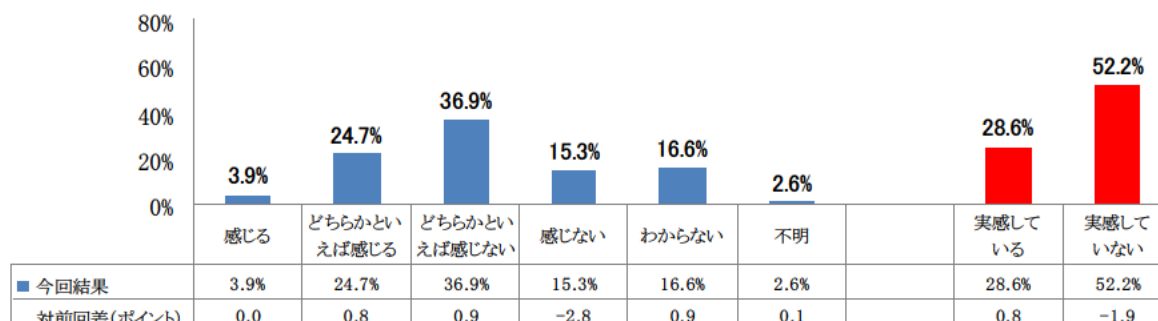
#### (2) 属性別から見た主な傾向（図表 2-2-26 参照）

- ・地域別で見ると、“北勢地域”で実感している傾向が強く、“東紀州地域”で弱くなっています。
- ・性別で見ると、“女性”で実感している傾向が強く、“男性”で弱くなっています。
- ・年齢別で見ると、“70歳以上”で実感している傾向が強く、“40～50歳代”で弱くなっています。
- ・その他、“専業主婦・主夫”、“無職”、“100万円未満”などで実感している傾向が強く、“正規職員”、“300万円以上”で弱くなっています。
- ・詳細分析によると、“東紀州地域の30～40歳代”や“北勢地域を除く全ての地域の正規職員”などで実感している傾向が弱くなっています。

#### (3) 考察

- ・県全体としては、実感していない層が実感している層を大きく上回っています。また、わからないという回答も16.6%と比較的多く、実感が強くなっている層は70歳以上、専業主婦・主夫、無職、年収100万円未満などとなっています。
- ・そのようななか、男性、正規職員、年収300万円以上、40～50歳代といった産業活動の当事者と想定される層での実感が弱くなっており、実際に働いているなかで活発であると実感されていない可能性があります。
- ・ただし、北勢地域では、正規職員も含めて実感している傾向が強くなっており、企業の立地状況などが関係している可能性があります。

図表 2-2-25 県民の皆さんがどのくらい実感しているか



図表2-2-26 特徴のある属性項目（1属性）

（凡例）「\*\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に非常に有意な属性項目（信頼度99%以上、危険率1%未満）

「\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目（信頼度95%以上、危険率5%未満）

「\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的にある程度有意な属性項目（信頼度90%以上、危険率10%未満）

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い		実感している傾向が相対的に弱い	
		実感している割合が高い	実感していない割合が低い	実感している割合が低い	実感していない割合が高い
地域	北勢	**	**		
	伊賀				
	中南勢				
	伊勢志摩				
	東紀州				*
性別	男性				***
	女性		***		
年齢	20歳代				
	30歳代				
	40歳代				*
	50歳代				**
	60歳代				
	70歳以上		***		
主な職業	農林水産業				
	自営業・自由業				
	正規職員				***
	パート・バイト・派遣社員				
	その他の職業				
	学生				
	専業主婦・主夫		**		
無職		**			
配偶関係	未婚				
	有配偶				
	離別・死別		*		
世帯類型	単独世帯		**		
	一世代世帯				
	二世帯世帯				
	三世帯世帯				
本人の年間収入	～100万円未満		***		
	～200万円未満				
	～300万円未満				
	～400万円未満				***
	～500万円未満				**
	～600万円未満				***
	～800万円未満				**
	～1,000万円未満				**
	1,000万円以上				**
	子ども	就学前の子いる			
就学前以外の子いる					
いない					

前回調査との比較に関する詳細なデータは別冊のデータ集54頁、  
2属性クロス集計を含む属性項目毎の詳細なデータは別冊のデータ集106頁～109頁を参照

## 1.4 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている（問2-14）

### (1) 県全体の結果（図表 2-2-27 参照）

働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は15.3%、「どちらかといえば感じない」と「感じない」を合計した「実感していない層」の割合は69.8%となっています。

前回調査と比較すると、「実感している層」の割合が1.6ポイント増加<sup>※1</sup>し、「実感していない層」の割合は2.9ポイント減少<sup>※2</sup>しました。

※1 「実感している層」の割合の増加について信頼度99%以上（危険率1%未満）の水準で統計的に有意

※2 「実感していない層」の割合の減少について信頼度99%以上（危険率1%未満）の水準で統計的に有意

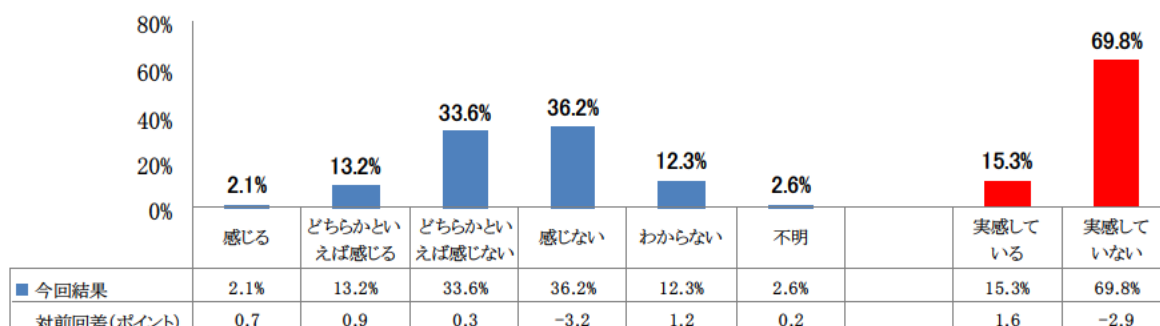
### (2) 属性別から見た主な傾向（図表 2-2-28 参照）

- ・地域別で見ると、「伊勢志摩地域」、「東紀州地域」で実感している傾向が弱くなっています。
- ・性別で見ると、「男性」で実感している傾向が弱くなっています。
- ・年齢別で見ると、「70歳以上」で実感している傾向が強く、「20～50歳代」で弱くなっています。
- ・その他、「無職」、「単独世帯」、「800万円以上」などで実感している傾向が強く、「正規職員」、「パート・アルバイト・派遣社員など」、「200～600万円未満」などで弱くなっています。
- ・詳細分析によると、「女性の40～50歳代、パート・アルバイト・派遣社員など」で実感している傾向が弱くなっています。
- ・また、年齢と年間収入の関係で見ると、「20歳代」では「300万円未満」、「30歳代」では「400万円未満」、「40歳代」では「600万円未満」、「50歳代」では「800万円未満」を境に「実感していない層」の割合が多くなっています。

### (3) 考察

- ・全ての地域で実感していない層の割合が多くなっていますが、伊勢志摩地域及び東紀州地域で実感している傾向が弱く、地域差が見られ、雇用の状況などが実感に関連している可能性があります。
- ・また、女性の40～50歳代やパート・アルバイト・派遣社員などで実感している傾向が弱くなっていますが、子育てが落ち着き、家庭と両立しながら働きたいと考える女性の実感が低くなっている可能性があります。
- ・さらに、全体として年間収入が200～800万円未満の層で実感している傾向が弱く、また、実感していない層が実感している層を上回る年間収入額は、年齢とともに徐々に高くなることから、実際に働いている人が自身の年齢に応じた年収を得られていないと感じている可能性があります。

図表 2-2-27 県民の皆さんがどのくらい実感しているか





図表 2-2-28 特徴のある属性項目（1属性）

（凡例）「\*\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に非常に有意な属性項目（信頼度99%以上、危険率1%未満）

「\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目（信頼度95%以上、危険率5%未満）

「\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的にある程度有意な属性項目（信頼度90%以上、危険率10%未満）

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い		実感している傾向が相対的に弱い	
		実感している割合が高い	実感していない割合が低い	実感している割合が低い	実感していない割合が高い
地域	北勢				
	伊賀				
	中南勢				
	伊勢志摩				**
	東紀州				***
性別	男性				**
	女性				
年齢	20歳代				*
	30歳代				**
	40歳代				***
	50歳代				***
	60歳代				***
	70歳以上		***		
主な職業	農林水産業	**	*		
	自営業・自由業				
	正規職員				***
	パート・バイト・派遣社員				***
	その他の職業				
	学生				
	専業主婦・主夫 無職		***		
配偶関係	未婚				
	有配偶				
	離別・死別		**		
世帯類型	単独世帯		***		
	一世代世帯		**		
	二世帯世帯				**
	三世帯世帯				**
本人の年間収入	～100万円未満				
	～200万円未満				
	～300万円未満				**
	～400万円未満				***
	～500万円未満				***
	～600万円未満				**
	～800万円未満				
	～1,000万円未満	*			
	1,000万円以上	*	**		
子ども	就学前の子いる				
	就学前以外の子いる				
	いない				

前回調査との比較に関する詳細なデータは別冊のデータ集 55頁、  
2属性クロス集計を含む属性項目毎の詳細なデータは別冊のデータ集 110頁～113頁を参照

## 15 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる（問2-15）

### （1）県全体の結果（図表 2-2-29 参照）

国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいるかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は21.0%、「どちらかといえば感じない」と「感じない」を合計した「実感していない層」の割合は58.6%となりました。

前回調査と比較すると、「実感している層」の割合が3.7ポイント増加<sup>※1</sup>し、「実感していない層」の割合は5.6ポイント減少<sup>※2</sup>しました。

※1 「実感している層」の割合の増加について信頼度99%以上（危険率1%未満）の水準で統計的に有意

※2 「実感していない層」の割合の減少について信頼度99%以上（危険率1%未満）の水準で統計的に有意

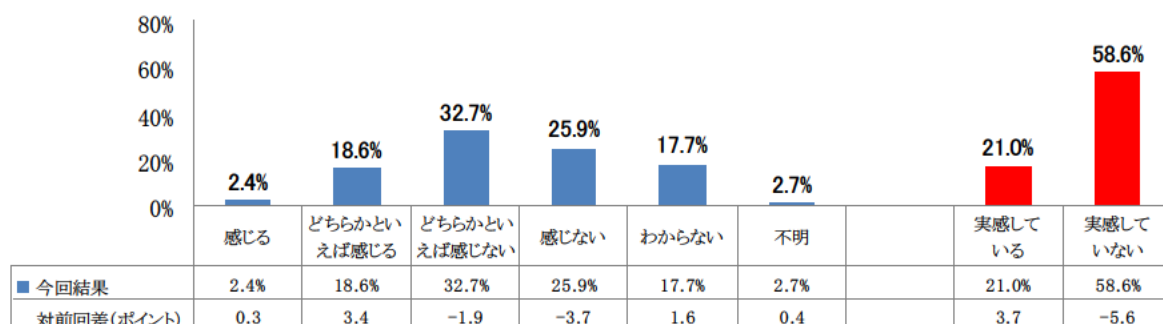
### （2）属性別から見た主な傾向（図表 2-2-30 参照）

- ・地域別で見ると、“伊勢志摩地域”で実感している傾向が強くなっています。
- ・性別で見ると、“女性”は実感している傾向が強く、“男性”は弱くなっています。
- ・年齢別で見ると、“70歳以上”で実感している傾向が強く、“20～50歳代”で弱くなっています。
- ・その他、“専業主婦・主夫”、“無職”、“200万円未満”などで実感している傾向が強く、“正規職員”、“200～800万円未満”などで弱くなっています。

### （3）考察

- ・県全体として、実感していない層が実感している層を大きく上回っています。また、わからないという回答も多くなっていることから、県内では情報の受け手としての実感が難しいという判断がある可能性があります。
- ・一方、伊勢志摩地域、女性、70歳以上、無職などで実感している傾向が強いことについては、観光客などの来訪者と地域での交流が図られている可能性があります。
- ・男性、正規職員、50歳代以下、年間収入の高い層などで実感している傾向が弱いことについては、仕事や経験を通じて把握している三重県の魅力をもっと発信すべきと考えている可能性があります。
- ・これらのことから、三重県の魅力を発信していくにあたっては、情報や交流が県内にもフィードバックできる取組も考えられます。

図表 2-2-29 県民の皆さんがどのくらい実感しているか



図表 2-2-30 特徴のある属性項目（1属性）

（凡例）「\*\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に非常に有意な属性項目（信頼度99%以上、危険率1%未満）

「\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目（信頼度95%以上、危険率5%未満）

「\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的にある程度有意な属性項目（信頼度90%以上、危険率10%未満）

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い		実感している傾向が相対的に弱い	
		実感している割合が高い	実感していない割合が低い	実感している割合が低い	実感していない割合が高い
地域	北勢				
	伊賀				
	中南勢				
	伊勢志摩		*		
	東紀州				
性別	男性				***
	女性		***		
年齢	20歳代				**
	30歳代				***
	40歳代				***
	50歳代				***
	60歳代				***
	70歳以上	*	***		
主な職業	農林水産業				
	自営業・自由業				
	正規職員				***
	パート・バイト・派遣社員				
	その他の職業				
	学生				*
配偶関係	専業主婦・主夫		**		
	無職		***		
	未婚				*
世帯類型	有配偶				*
	離別・死別		***		
	単独世帯		**		
	一世代世帯		**		
本人の年間収入	二世帯世帯				***
	三世帯世帯				
	～100万円未満		**		
	～200万円未満		*		
	～300万円未満				*
	～400万円未満				**
	～500万円未満				***
	～600万円未満				***
	～800万円未満				***
	～1,000万円未満				***
1,000万円以上				**	
子ども	就学前の子いる				*
	就学前以外の子いる いない				

前回調査との比較に関する詳細なデータは別冊のデータ集56頁、  
2属性クロス集計を含む属性項目毎の詳細なデータは別冊のデータ集114頁～117頁を参照

## 16 道路や公共交通機関等が整っている（問2-16）

### （1）県全体の結果（図表2-2-31 参照）

道路や公共交通機関等が整っているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は40.8%、「どちらかといえば感じない」と「感じない」を合計した「実感していない層」の割合は52.4%となっています。

前回調査と比較すると、「実感している層」の割合が3.3ポイント増加<sup>\*1</sup>し、「実感していない層」の割合は3.5ポイント減少<sup>\*2</sup>しました。

なお、「東紀州地域」では実感している傾向は弱いものの、前回調査よりも「実感している」割合が11.2ポイント高く<sup>\*3</sup>なっています。

※1 「実感している層」の割合の増加について信頼度99%以上（危険率1%未満）の水準で統計的に有意

※2 「実感していない層」の割合の減少について信頼度99%以上（危険率1%未満）の水準で統計的に有意

※3 東紀州地域の「実感している層」の割合の増加について信頼度99%以上（危険率1%未満）の水準で統計的に有意

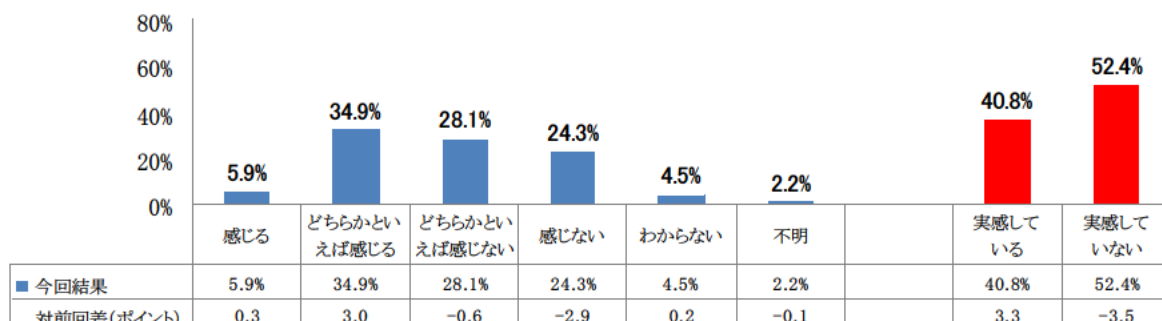
### （2）属性別から見た主な傾向（図表2-2-32 参照）

- ・地域別で見ると、「北勢地域」で実感している傾向が強く、「伊賀地域」、「東紀州地域」で弱くなっています。
- ・年齢別で見ると、「70歳以上」で実感している傾向が強く、「30～50歳代」で弱くなっています。
- ・その他、「無職」などで実感している傾向が強く、「正規職員」、「300～800万円未満」、「就学前の子どもがいる」などで弱くなっています。
- ・詳細分析によると、「単独世帯の20歳代、学生」で実感している傾向が弱くなっています。

### （3）考察

- ・地域による差については、紀勢自動車道の延伸があった東紀州地域で11.2ポイント高くなったことなども考慮すると、道路整備状況等と関連している可能性があります。
- ・30～50歳代、正規職員、収入が300～800万円未満の層などは、通勤や仕事により移動する機会が多いことが想定され、日常的に移動を行う中で、道路や公共交通機関が整っていると実感できていない可能性があります。
- ・また、単独世帯の20歳代や学生、就学前の子どもがいる層については、公共交通機関を利用する機会が多いことが想定され、公共交通機関に不満を感じている可能性が考えられます。

図表2-2-31 県民の皆さんがどのくらい実感しているか



図表 2-2-32 特徴のある属性項目（1属性）

（凡例）「\*\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に非常に有意な属性項目（信頼度99%以上、危険率1%未満）

「\*\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目（信頼度95%以上、危険率5%未満）

「\*」・・・県全体の回答割合との差が統計的にある程度有意な属性項目（信頼度90%以上、危険率10%未満）

属性	属性項目	実感している傾向が相対的に強い		実感している傾向が相対的に弱い	
		実感している割合が高い	実感していない割合が低い	実感している割合が低い	実感していない割合が高い
地域	北勢	*			
	伊賀			***	***
	中南勢				
	伊勢志摩				
	東紀州			**	***
性別	男性				
	女性				
年齢	20歳代				
	30歳代				**
	40歳代				**
	50歳代				**
	60歳代				
	70歳以上	**	***		
主な職業	農林水産業				
	自営業・自由業	*			
	正規職員			*	***
	パート・バイト・派遣社員				
	その他の職業				
	学生 専業主婦・主夫 無職		**		
配偶関係	未婚				
	有配偶				
	離別・死別		**		
世帯類型	単独世帯				
	一世代世帯				
	二世帯世帯				*
	三世帯世帯				
本人の年間収入	～100万円未満				
	～200万円未満				
	～300万円未満	*			
	～400万円未満				
	～500万円未満				***
	～600万円未満				*
	～800万円未満				***
	～1,000万円未満	*			
	1,000万円以上				
子ども	就学前の子いる				**
	就学前以外の子いる				
	いない				

前回調査との比較に関する詳細なデータは別冊のデータ集 57 頁、  
2属性クロス集計を含む属性項目毎の詳細なデータは別冊のデータ集 118 頁～121 頁を参照

## (参考)

## 1. 幸福実感指標について

幸福実感指標は「みえ県民カビジョン行動計画」において、16の政策分野ごとに設定したもので、県民の皆さん一人ひとりが生活している中で感じる政策分野ごとの実感の推移を調べ、全体としての幸福実感を把握するための指標です。

幸福実感指標とそれに関連する県の政策分野は以下のとおりです。

問2	幸福実感指標	関連する政策分野
(1)	災害等の危機への備えが進んでいると感じる県民の割合	危機管理
(2)	必要な医療サービスが利用できていると感じる県民の割合	命を守る
(3)	犯罪や事故が少なく、安全に暮らしていると感じる県民の割合	暮らしを守る
(4)	必要な福祉サービスが利用できていると感じる県民の割合	共生の福祉社会
(5)	身近な自然や環境を守る取組が広がっていると感じる県民の割合	環境を守る持続可能な社会
(6)	一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できていると感じる県民の割合	人権の尊重と多様性を認め合う社会
(7)	子どものためになる教育が行われていると感じる県民の割合	教育の充実
(8)	地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じる県民の割合	子どもの育ちと子育て
(9)	スポーツを通じて夢や感動が生まれていると感じる県民の割合	スポーツの推進
(10)	自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じる県民の割合	地域との連携
(11)	文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができると感じる県民の割合	文化と学び
(12)	三重県産の農林水産物を買いたいと感じる県民の割合	農林水産業
(13)	県内の産業活動が活発であると感じる県民の割合	強じんて多様な産業
(14)	働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じる県民の割合	雇用の確保
(15)	国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じる県民の割合	世界に開かれた三重
(16)	道路や公共交通機関等が整っていると感じる県民の割合	安心と活力を生み出す基盤

## 2. 分析の進め方

16の幸福実感指標毎に、以下の通り分析を行いました。

- (1) まず、県民の皆さんがどのくらい実感しているのかを確認するため、県全体のそれぞれの回答割合を図示しました。
- (2) 次に「実感している」割合と「実感していない」割合について、県全体の回答割合との差が統計的に有意な属性項目を図示しました。
- (3) さらに、属性における特徴や傾向を詳細に見るため、性、年齢別などによる2属性クロス集計を行いました。集計データの量は膨大であり、別冊のデータ集としてまとめています。
- (4) 最後に、他の統計データなども踏まえながら、考察した内容をまとめています。